

モニタリング結果報告書

施設 県立汐見台病院
指定管理者 社団法人 神奈川県医師会
施設所管課 保健福祉局企画調整部病院事業課

(平成 22 年度 上半期)

管理運営状況総括

1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考（確認事項等）
4月	5月24日	5月28日	月例報告書を確認、改善事項なし
5月	6月21日	6月28日	月例報告書を確認、改善事項なし
6月	7月29日	8月5日	月例報告書を確認、改善事項なし
7月	8月24日	8月31日	月例報告書を確認、改善事項なし
8月	9月27日	10月4日	月例報告書を確認、改善事項なし
9月	10月26日	11月2日	月例報告書を確認、改善事項なし

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A：提案を上回る B：提案どおり C：提案を下回る

(2) 実施状況等

（指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。）

< 提案内容の概要 >

政策的医療機能として、救急医療の対応、地域医療機関との連携の充実、腎疾患専門医療の対応等を行う。

< 実施状況 >

横浜市磯子地域の中核病院として、救急患者の受け入れ（上半期は1,561人）、患者紹介や共同診療といった地域の医療機関との連携の充実、腎疾患専門治療部における治療等を行っている。

また、分娩を取り扱う医療機関が減少する中で、平成19年度から政策的医療機能として産科医療の充実を位置づけており、平成22年度上半期は395件の分娩を実施した。

3 収支状況

(単位：千円)

	収 入 額				支出額	収支差額
	指定管理料	利用料 (前年同月 料金額)	その他収入			
年間予算額	4,784,051	767,956	4,012,795	3,300	4,784,051	0
上半期計 (a)	2,072,631	689,504	1,383,049 (0)	78	1,634,732	437,899
4月	385,959	350,000	35,921 (0)	38	123,264	262,695
5月	98,666	53,996	44,670 (0)	0	242,885	△ 144,219
6月	561,100	252,075	309,025 (0)	0	420,621	140,479
7月	318,675	11,167	307,508 (0)	0	291,218	27,457
8月	147,777	11,050	136,727 (0)	0	265,071	△ 117,294
9月	560,454	11,216	549,198 (0)	40	291,673	268,781
下半期計 (b)						0
合計 (a+b)	2,072,631	689,504	1,383,049	78	1,634,732	437,899

- 1 指定管理者の収入を記載する(県の収入である「使用料」は含まない)。
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

- ・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

診療報酬改定に伴う入院基本料の増額及び外科の抗がん剤注射件数及び小児の在宅医療患者の増により収益増となった。

(今期に行った資本的な収入及び支出の状況)

	内容	金額(千円)
収入の状況	無し	
支出の状況	無し	
積立等の状況	職員退職積立金 ※支出額は上記収入状況表の内数	33,949

- 収入の状況:定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
 支出の状況:車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
 積立等の状況:積立・借入れ等がある場合は、その内容(施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等)、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

	患者数			前年同月患者数			対前年比増減率		
	外来	入院	救急	外来	入院	救急	外来	入院	救急
上半期計(a)	75,529人	29,809人	1,561人	74,279人	31,443人	1,805人	1.7%	△5.2%	△13.5%
4月	12,523	4,803	263	11,497	5,490	253	8.9%	△12.5%	4.0%
5月	11,941	5,095	288	11,409	5,253	363	4.7%	△3.0%	△20.7%
6月	13,278	5,266	234	12,870	5,201	279	3.2%	1.2%	△16.1%
7月	13,078	5,188	271	13,561	5,266	287	△3.6%	△1.5%	△5.6%
8月	12,263	4,961	266	12,657	5,266	287	△3.1%	△5.8%	△7.3%
9月	12,446	4,496	239	12,285	4,967	336	1.3%	△9.5%	△28.9%
下半期計(b)									
合計(a+b)	75,529	29,809	1,561	74,279	31,443	1,805	1.7%	△5.2%	△13.5%

利用状況に関する意見等

半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。

前年度比で外来患者が増加した主な理由は、横浜市の乳がん・子宮がん検診の受診者の増によるものである。入院患者が減少した主な理由は、4月に内科系の退院患者が多かったことによるものである。

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

(施設所管課受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月			1			1
5月			0			0
6月			1			1
7月			1			1
8月			1			1
9月			0			0

報告月	口頭	文書	合計
4月			0
5月			0
6月			0
7月			0
8月			0
9月			0

6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。

分野	概要	対応状況
施設運営	検査室で女性技師を希望する場合は申し出てほしい旨の掲示があったようだが、気づかなかった。	掲示を目立つように作成し直し、目に付きやすい場所に張り替えた。
	看護師の対応が形式的だ。	本人に注意するとともに、同じ病棟のスタッフにも周知した。
	待合に子どもが口にしような形状のおもちゃが置いてあるので、なくしてほしい。	衛生上好ましくないため撤去した。
施設・設備	産科の患者呼び出しマイクが聞こえづらい。	マイクの修理を行った。

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

発生日	概要・対応状況等
4月17日	家族の診察券で受付した患者がおり、そのまま家族の名前で受診してしまい、診察後、本人が申し出て分かった。診察時の患者確認が不十分であったため、各段階で確認を徹底するよう職員に周知した。
6月11日	70代の患者が、看護師が与薬した降圧剤（持参薬）と患者の手元に残っていた持参薬の両方を内服していた。入院時の持参薬確認内容を再度スタッフ間で確認した。また、持参薬の管理について、薬剤師・医師を含めカンファレンスを行い、手順を確認した。

8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日	無し		
月 日			

9 上半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指定管理者

産科医療については、昨年下半年に引き続き分娩予定件数を月72件とし、上半期については395件の分娩を取扱った。また、助産師外来においても安定して834件を取扱っており、当院の分娩への取組みが大いに認知されるようになり、常に一人でも多くの方が分娩できるよう調整を行った。さらに、アトピー外来に替わり、5月より学童外来（皮膚科）を開始、スポーツ整形外科外来においては、磯子区周辺の中学校・高校及び大学への受診案内を送付し、スポーツ外傷・傷害の受入れ拡充を図る取組みを行った。また、横浜市の無料クーポンによる乳がん検診及び子宮がん検診の実施機関として協力を行っている。

施設所管課

横浜市磯子地域の中核病院として、地域医療機関との連携を密にした開放型病院として医療を提供している。特に、分娩を取り扱う医療機関が不足する中で、地域の医療ニーズに応じて産科医療の充実に努めており、助産師外来の取組み等により引き続き前年度と同程度の分娩件数を維持している。施設の運営管理は良好に実施されている。